

拘束五周年によせて～袁克勤先生の一日も早い釈放を望みます

北海道教育大学元教授の袁克勤先生が2019年5月29日に中国・長春で拘束されてから5年がたちました。拘束後の2年間、私たちは数度にわたり、緊急アピールを出しました。一度目(2019年12月24日付)は先生が消息不明となり、これを尋ねるもの、二度目は先生を「スパイ」と断定した中国外交部報道官への抗議をこめたものでした(2020年3月27日付)。三度目(2021年5月24日付)は、2021年4月22日に汪文斌外交部報道官が袁先生の起訴とともに加えた、「中国国民である。スパイ犯罪に関わった疑いで国家安全部門が法に基づき調べた。犯罪事実を包み隠さず自供し、事実もはっきりしており、証拠も確かである」との主張の真偽を問うもの、そして四度目(2021年5月31日付)は、趙立堅・中国外交部報道官の2021年5月26日付中国メディアへのコメントに関するものでした。昨年は「拘束四周年によせて」(2023年5月30日付)を公開しました。

すでに先生が拘束されてから5年の月日を迎えようとしています。にもかかわらず、袁克勤先生の裁判に関する確たる情報もなく、先生の安否すら不明のまま今日に至っています。2024年5月14日付で「懲役6年の実刑判決、上訴中」という報道はありましたが、中国外交部報道官は「具体的な状況については、主管部門に問い合わせよ。言えることは、中国は法治国家であり、関連の案件は法に基づいて審理される」とのみ発言しています。これを受け、日本外務省は15日に、コメントを控えるとしつつ、袁教授は「我が国の大学において教職に就かれていた方であり、関心をもって本件を注視している」と答えました。

このことは袁先生が「スパイ容疑」の罪状を一切認めていないことを意味していると私たちは受け止めています。中国が「法治国家」であるならば、正当な手続きにより、先生の無罪が明白となり、釈放される日が来ることを私たちは確信します。

昨今、日本で活躍されている中国籍の学者が相次いで拘束されていますが、袁先生への支援を続ける私たちは深い憂慮と懸念を共有しています。袁先生の問題を含め、今回、新たに拘束された方々の問題が解決しない限り、日本在住の研究者の多くは国籍にかかわらず、中国への渡航に二の足を踏まざるをえないでしょう。いっどこで、中国安全部に一方的に拘束され、「スパイ容疑」の罪状をかけられるかわからないからです。この意味するところは、日中の人的交流に大きな障害が横たわり、正常な社会的な関係が破壊されていることを意味します。

私たちは一日も早く袁克勤先生の冤罪が雪がれ、釈放されるとともに、日中の交流が安全・安心に行われるよう復活することを心より願っています。

2024年5月20日

袁克勤先生を救う会
百瀬響・岩下明裕・佐々木卓也・武田泉・鈴木賢・池直美ほか
袁克勤先生の研究仲間・友人一同